

新プロジェクト

報道発表資料の配付日時 2025 年 6 月 18 日 (水) 10 時 00 分

札幌医科大学附属病院

「信州おやき」で女性医師を支える新プロジェクト始動！

— 食と共感で、“女性医師が長期に躍動できる医療現場”をつくる試み —



画像はイメージです。

■ 忙しい女性医師のリアルに向き合う、新たな食支援

札幌医科大学附属病院医師就労支援事業ではこのたび、「円山おやき満月屋」と協働し、子育て中の女性医師を対象とした食とコミュニティの支援プロジェクトを開始しました。

本プロジェクトは、診療・家庭・研鑽と多忙を極める女性医師の「心身の健康」と「孤立感の解消」を目的に、短時間で食べられる健康的な軽食の販売を基に、診療科を超えたつながりの場づくりを進めるものです。

■ データが示す深刻な現実——「母親医師は 37.2%年収減」

本プロジェクトの背景には、2024 年に発表された研究論文(BMC Health Services Research)があります。

札幌医科大学医療安全・病院管理学の西田幸代講師と一橋大学経済研究所の臼井恵美子教授による研究チームは、子どもを持つ女性医師の多くがキャリアの中断を経験し、結果として男性医師より主たる就業において平均 37.2%低い収入で働いている実態を明らかにしました。

■ 女性医師が“パートナーに頼れない”事情も

加えて、2025 年 4 月に発表された別の研究(Discover Health Systems)では、女性医師のパートナーとして最も多い「男性医師」も兼業(医療支援等)や遠方勤務により大きな負担を抱えていることが報告されています。

特に北海道では、男性医師の兼業先が遠隔地に集中しており、家庭内のサポートが難しい状況も見えてきました。「共働き医師世帯」の過酷な現実が、女性医師の孤立と心身の疲弊を深める一因となっている可能性があります。

■ 丁寧なファストフード”「円山おやき満月屋」の手作りおやきが大学病院内の売店に登場予定！

こうした課題に対し、本プロジェクトでは、手軽に「主食・主菜・副菜」をバランス良く摂れ、昼食・当直時の軽食はもちろん、家族の食事や、冷凍保存食にもなる信州の伝統食「おやき」を活用し、女性医師の声に基づく軽食を開発中。

既存のメニューから食べてみたい具材を選考したり、女性医師たちが試食・監修を経た健康的なレシピを検討したりと活動中です。今後は、院内売店で販売や、試食会の開催も予定しています。

■ 「食」から生まれる“横のつながり”とウェルビーイング

「食べる」ことは、生きるために必要な基本的な営みであることから、「食」は万人の共通の話題となり得えます。なかでも上記の背景からスポットを当てた「おやき」と「おやきを囲むこの場」が、診療科の垣根を越えた対話のきっかけとなり、情報共有や共感の場＝女性医師のコミュニティへと発展することを期待しています。働く現場に小さな“ほっとする時間”を取り戻す——そんな新しい医療支援のかたちを、「食」から提案します。

【本件に関するお問い合わせ先】

札幌医科大学 医療安全・病院管理学 講師

西田幸代

sachi@sapmed.ac.jp

【協力】

円山おやき満月屋

代表 石澤 里佳

mangetsuya33@gmail.com

キタノチカラ

代表 フードディレクター 成田 直人

naonchuworks@gmail.com

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

蔦屋書店事業本部 コンシェルジュ室 ブランドビジネス・ディレクター 櫻井 淳司

Junji.Sakurai@ccc.co.jp